『遺愛学院創基150周年記念碑』が
ホワイトハウス入り口に建立

遺愛学院は1874年（明治7年）に北米メソジスト監督教会から派遣されたMCハリス夫妻がキリスト教の伝道のために函館を訪れ、「日々学校」を創設してから150年の歩みを積み重ねてきた北海道で最も歴史のある中学高校です。1907年（明治40年）までは、箱館山の麓の元町で教育活動を行っていましたが、生徒数も増え、手狭になったため、1907年9月1日から杉並町に移転の予定で、本館・ホワイトハウス（旧宣教師館）・寮をつくりました。設計は立教大学初代学長のガーデイナーでした。

しかし1907年8月25日の函館大火のために移転は遅れ、1908年1月からこの地での教育活動が始まりました。ホワイトハウスは2001年、本館は2004年に国の重要文化財に指定され、大切に維持管理してきましたが、さすがに本館は築110年を超える頃から傷みがひどくなり、修繕が必要となってきました。文化庁とも相談し、修復工事をすることになり、文建協や高橋組の協力を得ながら、6年かけて工事を完了しました。

本館修復費用は18億円以上かかりました。国の重文なので、国、道、函館市が費用の約91.5%負担して下さり、残り1億5300万円近くを遺愛学院で負担しました。決して財政的には豊かではない遺愛学院ですので、同窓生の皆様を中心にご寄付を募ったところ5,170万円以上集まりました。本当に感謝です。

9月27日（金）午前11時にに、30人近くの関係者がホワイトハウス入り口に集まり、井本晴雄教頭の司式のもと『創基150周年記念碑除幕式』が行われました。『記念碑』裏面には、10万円以上寄付して下さった152の個人・団体の御芳名が刻まれています。その方々だけで4,318万円となり、寄付総額の83.5%を占めました。心より感謝申し上げます。なお個人では、ハワイ在住のアラン・ササイさん（祖父が遺愛の初代教頭宇野兼三です。）、K44回卒業の故・丸山まりえさんらが最高額の200万円以上寄付して下さいました。
なお、除幕は佐々木ゆかり同窓会長と増田宣泰事務局長の手で行われました。

この記念碑は、青森県青森市の番地銘石店に制作をお願いしました。創業が大正5年の老舗で、青函トンネル（青森側と北海道側の両方の入り口）の銘板、青森県歴史街道の図、青森港青函連絡船戦災の碑、青森市役所前青森空襲の碑、青森山田高校サッカー部全国大会2冠の碑などを手がけています。

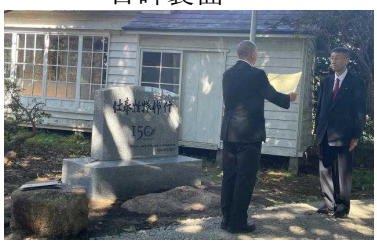
番地常夫社長は何度も遺愛のキャンパスに足を運び、制作して下さいました。心から感謝します。

2024年10月10日（木）

石碑正面

石碑裏面

除幕の様子



番地社長へ感謝状贈呈

石碑の前で記念写真